

## 第1回 症例検討会(トビ)概要

日時:2021年2月26日 20:30~22:00

参加者:動物園獣医師、開業獣医師、ファルコナー、リハビリテーター、生態調査者、放鳥ズ  
計8名

- ・トビであれば足趾2本でも生存の可能性はあるので治療完了後は放鳥することが良い。
- ・血行は保たれているようなので、消炎と固定は必要である。指は皮膚縫合してから、固定が良い。
- ・飛べないのは烏口骨や鎖骨に何かあるのだろうか。レントゲンによる確認は必須である。
- ・趾から全身の感染症の可能性はあるので、しっかりと治療すべきである。
- ・トビの例はわからないが、鴨、シギ、チドリの類いはたまに趾や足のないものもみられる。
- ・テグス周辺に肉芽形成をしてしまうため肉眼で可視できないところにテグスが残存している可能性もあるのではないかと。血流がギリギリ保たれるレベルで絞扼されているかもしれない。創切開して残存異物の確認除去、縫合が必要だと考えられる。注射針を利用し、埋没しているテグスを切ることもできる。
- ・今放鳥することは緩やかに殺すだけであるので福祉的にもいかなものかと思う。
- ・注射針で少し刺し引いてみると、テグスを切ることもできるのではないかと。病院では、ひっかけるような形状になったハサミを使用する。
- ・シャンプーで脂(油)を除去したということであったが、写真を見る限り、かなりついている。JOYなどを利用し、再度洗浄して除去したほうがよい。

### ▼その他情報

- ・後日、過去に趾が一本欠損したトビが他の原因で保護されたことがあると情報を得た。おそらく、1本欠損の状態野生生存していたものと思われる。
- ・第3趾がこんなふう曲がった個体があった。レントゲンを撮ると感染か何か原因で起きた関節の炎症で趾の骨の一部に骨融解がおきて曲がっていた。

(会議翌日にトビを直接確認した)

- ・飛翔状態を見て、翼は問題がないものと思われた。
- ・キールスコア3
- ・羽は油でかなりギトギト(予想以上に重度)
- ・初列の破損は軽度、尾羽は中程度
- ・第三趾は握り返すことができる。また、傷は指の全周ではなく、上部の一部だけであり、そこが重度に腫れあがり、指が曲がった方向にいていた。テグスはかなり確認したが発見できなかった。上記の状態から、全身の洗浄と、第三趾の固定をした。

